

阪神尼崎ユースセンター Hygge紹介資料

子どもの貧困に、本質的解決を。

**Learning
for
All** 

認定NPO法人Learning for All

2025.11

1. Hyggeの概要
2. Hyggeの利用者概要
3. Hyggeの取り組み
 - a. イベント運営
 - b. 介入対応
 - c. カフェ運営
 - d. 地域の商店街との連携

阪神尼崎 ユースセンター

Hygge

2024.8.6 Tue

OPEN

自分と想える瞬間を

「Hygge (ヒュッゲ)」ってのは、デンマーク語で「居心地がいい空間・時間」をさす言葉。物質で満たされるのではなく、人や社会とのつながりや自分らしい時間で満たされることを大切にしたい考え方のこと。

ユースセンターは、何をしてもしなくてもいい、若者だけの場所。ここでは、頑張りたいことを頑張れるし、休みたい時は休める。自分のことを自分で決めて、自分らしくいられる。

今を生きて、ありのままのあなたもやりたいことに向かって努力するあなたも、ええやん。頑張った自分にも、頑張れなかった自分にも、ええやん！と声をかけてあげよう。

阪神尼崎 ユースセンター

Hygge

ユースセンターは、何をしてもしなくてもいい、若者だけの場所。「こんなふうになりたい」と思ったら一緒に考えて一緒に実現していきます。テスト勉強に励んでも、友達とボードゲームをしても、一人で漫画を読んでも、ゆっくり寝転がっても大丈夫！

初めての人も気軽に楽しめる！Hyggeにきたらまずはダーツをしてみよう！

ひと休みしたい時は奥にあるハンモックへ！

種類豊富なボードゲームその日の気分に合わせて好きなゲームを楽しもう！

みんながくつろげる大きなフリースペース

利用できるもの

- Wi-Fi
- ボードゲーム
- 漫画
- イラスト
- 読書
- etc

バー・イベント

イベント

酒1回かフェテ運送してるよー！飲み物や軽食を食べながら落ちついて話せます！！

自由に飲食できるスペースや、レトルト食品などを持ち帰れるパントリーもあるよ！

季節ならではのイベントやスポーツなど、毎月色々な楽しいイベントをやってるよー！

みんながやりたいことを、スタッフと相談しながら一緒にやることもできるよ！

酒と肉と無敵が好き

スツパフ好きな人100%

おいしいもの盛りだくさんのカフェ

センター長 リッチちゃん

エディター リゅうちゃん

エディター もえ

大学生スタッフも

開設日時

毎週火・木・日 14:00 ▶ 21:00

詳しくはInstagramをご確認ください。

問い合わせ 070-3306-6122 contact_yc.amagasaki@learningforall.or.jp

住所 尼崎市昭和南通7丁目161-2 階

SNS LINE Facebook Instagram

InstagramでHyggeの日常を発信中！フォローしてね！

協賛 Learning for All BrainHumanity

1. Hygge（ヒュッゲ）の概要

Hyggeは、予防と介入をどちらもやるユースセンターです。

- Hygge（ヒュッゲ）は子ども若者の日常の中で、特定の困難を抱える前から出会い、福祉的な対応もできるユースセンターです。
- 日常を共に過ごすことで、若者が困る前から信頼関係を築きます。もし何か困難を抱えてしまった際には「Hyggeスタッフの〇〇に相談してみよう」と顔が思い浮かぶ状態を作ります。
- 相談があった際には、拠点スタッフのソーシャルワーカーが相談に応じ、必要があれば窓口や他機関へ繋がります。



1. Hygge（ヒュッゲ）の概要

| | | |
|------|--------|--|
| 基本情報 | 事業開始 | <ul style="list-style-type: none">2024年8月開所 |
| | 事業対象者 | <ul style="list-style-type: none">家庭の経済状況や本人の状態に関係なく、若者であればだれでも利用できるユニバーサルアプローチ型のユースセンター6歳から29歳まで利用可能 |
| | 現場人員体制 | <ul style="list-style-type: none">拠点スタッフ3名（フリースペース運営やイベント運営を担当）ソーシャルワーカー1名（相談対応、個別対応を担当）学生スタッフ2名 |
| 運営体制 | 尼崎市と協定 | <ul style="list-style-type: none">子ども・若者の困難な状況を支えるために尼崎市と協定を結んでいる。<ul style="list-style-type: none">✓ 尼崎市が行うこども若者向けイベント等においてもHyggeを活用✓ こども・若者が困難を抱える前からHyggeで関係性を構築することで予防的な支援を行い、必要に応じて個別支援につなげるなど、尼崎市の福祉部局との連携を実施 |
| | 協業事業者 | <ul style="list-style-type: none">NPO法人ブレインヒューマニティー：ユースセンターを運営してきた知見を持つ。LFAが実践してきたケースワーク・ソーシャルワークの知見と掛け合わせることで、子ども・若者にとってよりよい場を作ることを狙いとしている。 |

2025年10月まで（2024年8月～2025年10月）の活動成果の概要は以下の通りです。

のべ利用者

3,027人

イベント参加者

1,017人

相談件数

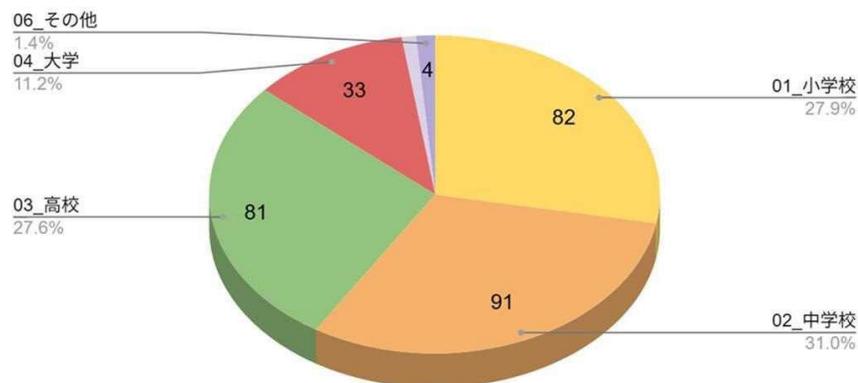
294件

2. Hygge（ヒュッゲ）利用者概要

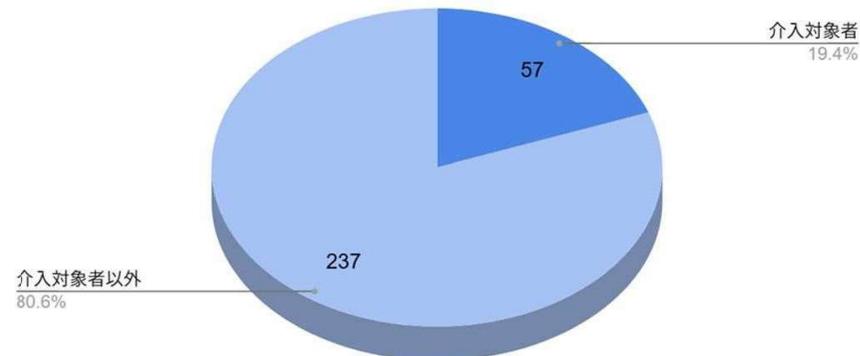
利用者概要

- 小学生から20歳前後の子ども若者が利用。300人が利用登録。※2025年10月現在
- 1日あたり15~20人が利用。
- 小学生の大部分は近隣に住んでいる。中学生以上は尼崎市内在中心。市外から来る中高生もいる。
- 個別の対応ニーズやケースワーク/ソーシャルワークのニーズが強い利用者は57人いる。（利用登録者のうち約1/5）※10/23現在
 - 本人からソーシャルワーカーへの相談があったケースや、相談はないが周囲からの情報で心配な様子が伺える子を介入対象とカウントしている。

分類別構成

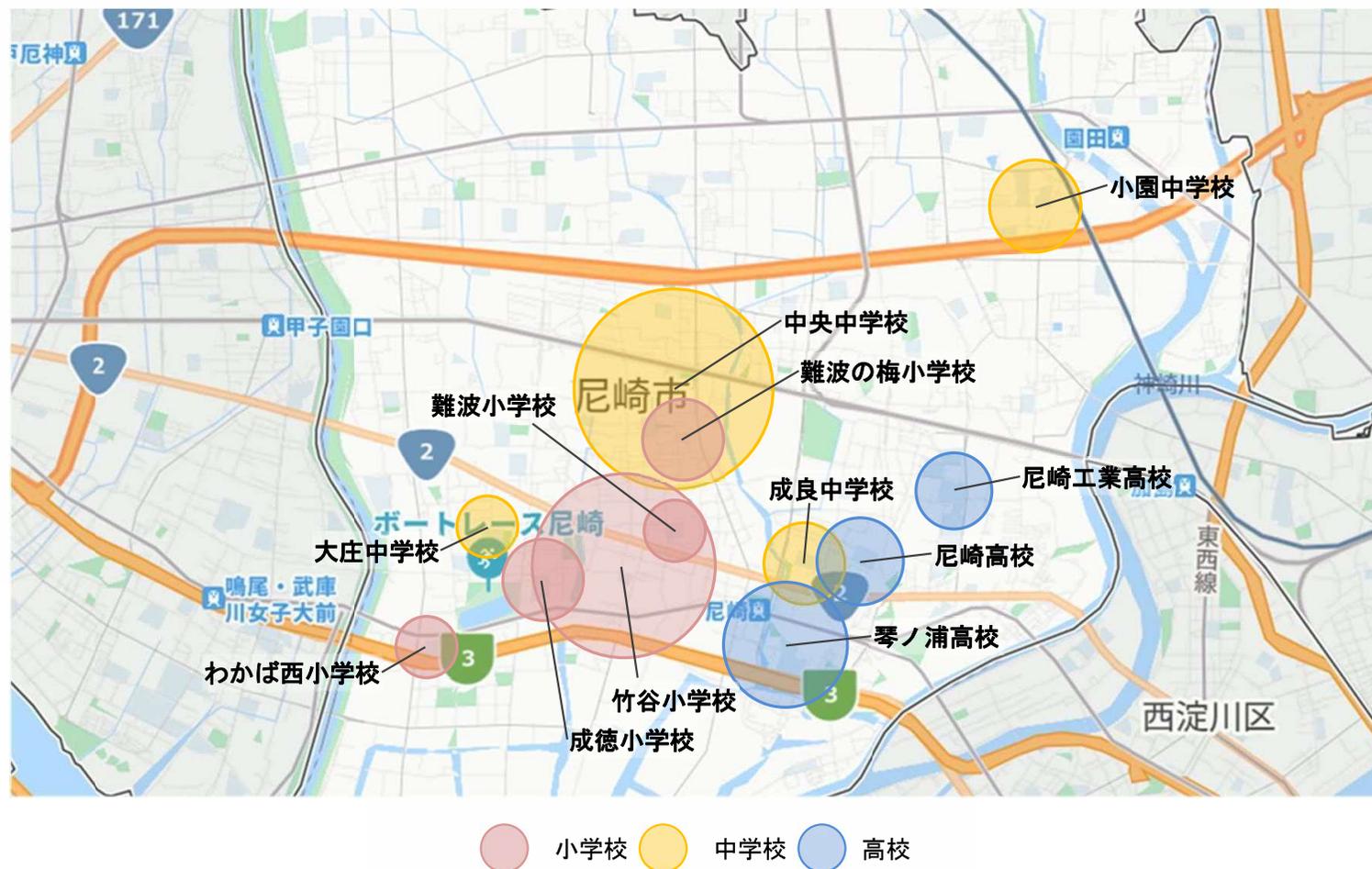


介入対象者割合



2. Hygge（ヒュッゲ）利用者概要

- 尼崎市南部の学校に在籍する利用者が全体の約7割（69.2%）となる。
- 特に利用が多い3校（中央中学校 60人、竹谷小学校 53人、琴ノ浦高校 21人）の在籍者が、全体の半数（48.6%）を占めている。



Hyggeでは、若者のニーズに合わせてイベントを実施しています。
季節のイベント、若者同士の交流など毎月6回ほど開催しています。

- オープンミーティング（利用者もスタッフも参加するHyggeの運営会議）
 - 目的）Hyggeの運営について利用者と相談する。Hyggeの備品を、利用者の声が反映できる公開されたプロセスによって決める。
 - 備品についての意見）クッションを追加で設置する意見の背景として、床に座っていると足やお尻に痛みを感じていたことがわかった。利用者からはカーペットを敷くアイデアも出てきた。
 - 漫画についての意見）利用者やスタッフから提案のあった10の漫画について、利用者が考えた内容でプレゼンを実施。投票の結果に沿って購入する漫画を決定した。
- おにぎりイベント
 - 目的）利用者からの「おなかすいた」という声が複数あがっていた。全員が参加しやすい状況でお腹を満たす。利用者の家庭状況などの背景を把握する。
 - 結果）家庭状況が心配な子も参加し、おにぎりを食べられている。一部の子から家庭状況を聞いた。
- スポーツイベント
 - 目的）運動する機会が限られている利用者が思いっきり体を動かす機会を作る。
 - 複数の利用者が学校に行っておらず、体育の授業や部活を通じて運動する機会にアクセスしづらい背景あり。
 - 結果）今まで2回実施。当日は15~25名の利用者が参加し、バレー・バスケ・バドミントンを楽しんでいる。お互いに励まし合いながら取り組む様子が見られた。運動をした後にHyggeのおにぎりイベントでお腹を満たす利用者もいた。



介入対象の利用者が見守られる環境づくりのためにスクールソーシャルワーカーや児童ケースワーカー（保健福祉センター：要対協の担当ワーカー）と連携しています

Hyggeがあるからこそスクールソーシャルワーカーに相談が繋がったケース

- Hyggeのソーシャルワーカーに、利用者からの金銭面の困りの吐露があった。Hyggeでの吐露を元にHyggeがスクールソーシャルワーカーを紹介し、本人の面談を設定。その後のスクールソーシャルワーカーの動きに繋げることができた。
- スクールソーシャルワーカーがいるだけでは子どもからの相談は届かない様子が見られた。Hyggeが間に入ることで、スクールソーシャルワーカーがより機能するようになると考えられる。

地域と連携して対応をしている兄弟（兄弟ともに要対協ケース）

- 兄弟から、夜間に親が家にいない様子、家事を担っている様子の話あり。
- 行政にも情報を共有し、ケース会議が開催された。地域と連携して手厚く支えられる資源に繋いでいくことに注力している。

要対協に登録されている中学1年生との関係構築

- もともとHyggeに来ていた中学生が、要対協ケースとして登録されていたことが判明した。
- 現在は恋愛やゲームの話などを通じて関係構築に取り組んでいる。今後は進路などの悩みが増えるくと想定しており、Hyggeとの関係をしっかり作りつつ、他機関の見立ても情報収集し、関係機関連携の土台を作っていく。

3. Hyggeの取り組み（カフェ運営）

カフェ運営 週1日

目的

- 「相談しよう」と本人が思えていなくても、雑談をする中で出てくる気持ちの吐露をキャッチし、状況を変えるために動き始める

対象

- 誰でも立ち寄れる
 - ターゲット：すべての中高生年代

内容

- ほっとする飲食スペースとしてカフェの運営
- 毎週火曜日に1時間運営。
- 1杯50円で飲み物を飲むことができ、200円でカルボナーラも食べられます。
- Hyggeスタッフがカフェ店員としてカウンターに立つ。

ポイント

- お腹を満たしながら話したいことを話せる場を作る。
- 相談できている状態の若者は、困っていることを認識し、困っていることを言葉にし、他者に頼ってもよいと思えているからこそ相談できます。すべての条件を満たしていない状態でも、他者（カフェスタッフ）がいることで条件を満たし、状況を変えるために動き始められるのがカフェの空間です



商店街と連携し、お手伝いの機会やイベントの機会を作っています。それらを通じて若者に、若者の持つ力を信じた地域住民との関わりや活躍の場を届けています。

- パン教室の開催（商店街のパン屋さんが講師を担当）
 - 目的）若者のやりたいを実現しながら、地域の大人との出会いの場を作る。
 - 結果）
 - パン作りに興味を持った3人の利用者が参加。この教室のためにパン屋さんが開発した生地を使ってパン作りを実施。
 - 参加していた1人の高校生がパン屋さんと仲良くなり、店の前を高校生が通った際に「よっ！」と手を振り合う関係になった。
- パン屋さんの値札を描くお手伝い
 - 目的）若者のできることや得意なことを、地域の中での活躍や出番に繋げる
 - 結果）パン屋さんの値札作りのお手伝いを実施。実際に何人かの若者がイラストを描いて、パン屋さんに提出している。

